

# 多様な早生樹等の優良種苗生産技術の開発に向けて

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 遺伝資源部長 生方正俊

近年、コウヨウザン、センダン、キハダ、ユリノキといった早生樹等への関心が高まり、林業関係者や関係機関からこれらの樹種の苗木や種子の取扱いについての問い合わせが、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター（以下「林木育種センター」という。）へ多く寄せられるようになりました。

このような情勢を踏まえ、林木育種センターでは、農林水産省の農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業として平成27年度から29年度にかけて、早生樹として期待されるコウヨウザンについて、鹿児島大学農学部、広島県立総合技術研究所林業技術センター及び中国木材株式会社と連携して、成長、材質、生育等の各種特性の評価、優良系統の選定等を行いました。この中で得られた成果を取りまとめ、コウヨウザンの優良種苗の生産技術につながる「コウヨウザンの特性と増殖の手引き」を作成し、Web上で公開しています（<https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/documents/koyozantebiki.pdf>）。



コウヨウザンコンテナ苗



コウヨウザン成木



チャンチンの根萌芽からの萌芽枝



コウヨウザンの芽生え

この成果をもとに、さらに優良な苗木生産に向けた技術開発にも着手します。

また、国立研究開発法人森林研究・整備機構の第4期中長期計画期間（平成28年～32年）においては、コウヨウザン、キハダ、ユリノキなどの新需要が期待できる早生樹等について、優良系統の選抜が可能となる母集団の作成を行うため、生育地からの遺伝資源の収集、保存及び評価を進めています。

さらに、平成29年度からは、一般財団法人日本森林業振興会の森林業振興助成事業として、全天連（全国天然木化粧合単板工業組合連合会）、九州大学、大分県及び熊本県と連携し、チャンチンとユリノキを対象に、早生広葉樹の優良種苗の生産技術の開発を進めています。

以上のように、林木育種センターでは、様々な機関と連携して多様な樹種について優良種苗の生産に必要な技術開発に取り組んでいます。

このような技術開発が、これまでのスギ、ヒノキ、カラマツ等の主要樹種に加えて、それぞれの地域に合った新たな造林用の樹種の選択肢を増やすことにつながっていけば、林業の成長産業化や地球温暖化森林吸収源対策に貢献できると考えています。



コンテナ育苗を開始したユリノキ



ユリノキ成木



ユリノキのさし木試験



ユリノキの実生